

第9回連載コラム(第1話)

クラブの繁栄と存続の秘訣

相談役 辻田満

第9回連載コラムは「クラブの繁栄と存続の秘訣」です。第1話は1. はじめに、2. 基本構想、3. 構想の実現に向けて、4. 広報活動です。

1. はじめに

毎年、初心者講習会を開催しているが一向に会員が増えない。会員が高齢化してきて会員の維持に苦勞している。このような悩みを持つクラブは多数あるかと思います。また、ビギナーが中々集まらない。新しい会員が定着しない。これはどこに問題があるのでしょうか？私は問題の根元はずばり「クラブとしての組織運営」そのものに原因があると思っております。

2. 基本構想

皆さんのクラブはクラブをこれからどのようなクラブにして行きたいのかその構想をしっかりと持っているのでしょうか？この構想こそが全ての出発点です。その構想によって今後対応すべき行動は大きく異なってきます。クラブの規模はどの程度を目指すのか、ダンスプログラムはどこまでを対象にするのか。主たる会員の年齢層はどの範囲とするのか。PLUS や RD はどうするのか。これらの構想によって例会場の場所、広さや例会開催日・時間等が自ずと決まってきます。そして、この例会場や開催日時で将来のクラブの規模も決まって来てしまうのです。そして、多くの会員がこの構想を共有しこれからのクラブのあるべき姿を目指して取り組むところからまずはスタートです。

3. 構想の実現に向けて

構想の実現に向けて最も根幹をなすのが

例会場と例会日です。現在の例会場と例会日はどのような構想の基に決められたのでしょうか？単に創立メンバーの都合や空いている会場があった等と安易に決めてはいませんか？構想の実現に向けてもう一度現在の会場や例会日のあり方について考えてみましょう。会場を探す上の条件はまず交通の便が良いことと例会時間が夜の場合は女性が夜1人でも安心して歩いて帰れることが基本です。自分は車であるからと言ってこのことを蔑ろにははいけません。例えば、最寄り駅から車で20分程度の所の会場であれば結構空いている会場もありますが、やはりそこで妥協してはいけません

次に、会場の広さの問題です。クラブとして目指す規模を想定した時にその規模に対応した会場を探すの良いでしょう。一般にクラブの規模は不思議と会場の広さによって決まると言われています。したがって、現在のクラブの規模に合わせるのではなくまずは自クラブが目指す規模にあったそれなりの広さのある会場を根気良く探すことが必要です。ただし、広い会場はそれなりに経費も掛かります。もし経費に見合うだけの会員数が集まらなかったら会場費の1人当たりの負担も高額になり、そのリスクに対する覚悟や予算措置は必要です。とにかく目指すべき構想に合致した会場を探すことをお勧めします。当初は会員も少ないので小さな会場を例会場にしてしまいがちです。しかし、それでは少ないセットでクラブ員が楽しんでしまって、それで満足してしまいそれ以上クラブの規模はなかなか大きくなりません。スクエアダンスはたくさんで踊れば踊る程その楽しさは倍増するものです。楽しければ人は集まります。そして、人が集まればまた楽しさが倍増すると言うように楽しさの輪がどんどん広がって行きます。会場の候補は複数探しておくことが大切です。とにかく例会場の決定は極めて重要な事で

あることを認識しなくてはなりません。

次に、重要なのは例会日と例会時間の決定です。1度決めた例会日や例会時間は後々なかなか変更することは困難です。例えば、休日に例会をやっているクラブが平日に例会日を変更しようとしても大変なことです。また、夜の時間帯にやっていたクラブが昼の時間帯に例会時間を変更することも極めて困難なこととなります。クラブの基本構想に沿った形で十分に検討した上で例会日と例会時間を決めることが必要です。原点に立ち返って現在の例会日・例会時間・例会場所のことを会員同士で話し合ってみましょう。

4. 広報活動

初心者講習会にどうしたら大勢のビギナーを集められるのでしょうか？・募集チラシの作り方・募集チラシの配布方法の工夫・新聞やタウン誌への記事掲載・公民館などへのポスターの掲示・ホームページやインターネットの SNS 活用などなど、外へ向けての広報活動の手段や方法などばかりを考えがちです。いつもビギナーが多数集まるクラブは何か特別な広報活動をしているのでしょうか？また、コールの上手な指導者がいるからでしょうか？同じ地域で活動しているクラブでもビギナーが集まるクラブと集まらないクラブがあります。

ゲスト級の素晴らしいコーラーがいるクラブでも会員規模は必ずしも大きいとは言えません。

あなたのクラブでは一部のメンバーだけが募集活動をしていませんか？ビギナーの獲得と育成は自分たちのクラブにとって最も大切な活動であるという認識をいかに普段からクラブ内に根付かせるかが成否のポイントです。とにかく限られたメンバーだけで動かずに会員に対して啓蒙活動をして行くことと、会を挙げて取り組み、具体的な勧誘方法に対して行動を起こすことです。常々全ての会員に機会ある毎に以下の①～⑥を何度も何度も語り続けることが必要です。

- ①新しい仲間は私たちにとって最も大切な人です。
- ②新しい仲間はスクエアダンスを構成する大きな要素です。
- ③新しい仲間を満たすことは私たちの役割です。
- ④新しい仲間はスクエアダンスの活力の源です。
- ⑤新しい仲間なしではスクエアダンスは継続することは出来ません。
- ⑥かつて私たちも新しい仲間としてスタートしたのです。

(次号に続く)

第9回連載コラム(第2話)

クラブの繁栄と存続の秘訣

相談役 辻田満

第9回連載コラムは「クラブの繁栄と存続の秘訣」です。第2話は5. 初心者講習会の開催、6. 常に初心に帰ったクラブ運営をです。

5. 初心者講習会の開催

初心者講習会は自分流ではなくやはり先輩達のノウハウを十分に参考にすべきです。問題は男女バランスです。通常の場合は女性が圧倒的に多く男性が極端に少ないのが普通です。高齢者対応も考えておく必要があります。公募して集まった以上は責任を持って対応すべきです。大切に上げて下さい。覚えるスピードは若い人にはついていけないでしょうから、何回か講習会を経験することによって少しずつ踊れるようになることを事前に説明しておく必要があります。

ビギナー講習には3原則があります。それは次の①～③です。

- ①教えずぎないこと。
- ②完璧を求めないこと。
- ③楽しさを教えること。

この3原則は講師のコーラーに徹底すべき重要な原則です。いずれにしてもまだスクエアダンスの楽しさを知らないで集まってきた人達をどのように引き留めておくかの工夫が必要です。長々とダンサーを立たせたままで動作の定義を言葉で説明している指導者はいませんか？初心者講習会は楽しさを教える場と心得て下さい。したがって、クラブを挙げて初心者講習会は毎回楽しい雰囲気作りと盛り上げが必要です。その為にはスナックタイムに時間をとって和気あいの雰囲気

作りをするとか、途中でビギナー歓迎会等のイベントをやるとかの企画も必要です。初心者講習会の期間中は淡々とベーシック動作だけを機械的に教えては高い定着率は望めないでしょう。

さて、講習の終了時に卒業パーティーをやるのが常ですが、必ずしもこの時点までにコスチュームは必要ありません。コスチューム作りがスムーズに受け入れられる工夫をしましょう。クラブコスチュームはクラブ員としての認識の元に皆さん納得の上で作成するとよいでしょう。とくに受講者の高齢化が進む中でコスチュームを納得して作らせるは新人を受け入れる時に越えなければならない大きなハードルの1つです。

ビギナー期間中に必ずマナーの講習をする必要があります。SD界にはSD界なりのしきたり等があり、きちんと説明して上げなければマナーの知らないダンサーになってしまいます。スクエア十則は勿論ですが、その他たとえば男性は長袖のシャツを必ず着用のこととか誘われて都合で断ったチップは踊ってはいけないことやセットを横切ってはいけないこと等徹底しておかなければならないことは結構あります。出来れば、それらのマナーは何度も反復して話されると効果があるでしょう。

6. 常に初心に帰ったクラブ運営を

クラブの規模に関わりなく組織として活動している以上は年に1度は必ず総会を開催することが必要です。そのためにはクラブとしての規約を作ることです。そして、規約に則り総会開催の手順に沿って、全員の参加の下に活動報告と収支決算報告、年間活動計画と予算、会計監査報告、役員を選出と一通りの内容を実施することが必要です。その中で難しいのが役員を選出と役割分担です。どうしてもクラブの規模もそんなに大きくないクラブは限られたメンバーだけで運営しがち

ですがそれは後々の為には好ましくありません。やはり、規模の大小に拘わらずここはきちんと組織としての体裁を整えて、組織としての運営に切り替えていく必要があります。役員としての役割としては会長、副会長、会計、総務、広報、スナック、会計監査、指導部等が比較的標準的だと思います。役員の役割はクラブの実情に合わせて決めて行けば良いと思います。出来るだけ一部の役員で物事が決まって行くシステムより多くの会員の意見が吸い上げられる組織が望ましいと思います。

そして、役員の選出は会長をはじめ全ての役員を選挙で選ぶことをお勧めします。

そして、役員の選出時に全ての会員に述べておいた方が良いことは4点あります。このお話は総会時の改選時に必ず全ての会員に徹底した方が良いでしょう。

- ①自分が役員をやりたくないからと言う考えで他の人を選ばないこと。
- ②この人ならクラブ運営をまかせられると言う観点で選ぶこと。
- ③選ばれた人は皆さんの期待に応えるように努めること。
- ④選んだ以上は全面的に協力を惜しまないこと。

(次号に続く)

第9回連載コラム(第3話)

クラブの繁栄と存続の秘訣

相談役 辻田満

第9回連載コラムは「クラブの繁栄と存続の秘訣」です。第3話は7. クラブ運営の基本原則、8. 情報の共有、9. 会報発行の意義です。

7. クラブの運営の基本原則

クラブ運営に当たっては基本原則を知らなくてはなりません。これを知らなければクラブは作ることが出来てもこれを存続させて行くことは難しいでしょう。クラブの運営の基本原則は以下の①～⑦です。

①ひとり(少数)ですべてをしないこと

クラブ運営に関わるスタッフになり手がいないのはなぜか？それは、クラブや組織の運営をすべてひとり(少数)でやってしまっているからです。これではなり手が出ないのは当然です。中心人物だけが走りまわらずに、役割をみんなで分担して実行するようにクセづけましょう。他にやらせた時に意に沿わぬ事があっても60点で満足することが大切です。

②いつまでもクラブ運営に関わらないこと

特に、オーナー的リーダーはクラブの成熟期にはいなくてもよいようにすることが大切です。つまり、しょせんリーダーとは消えていく運命にあること知らなくてはなりません。

③後継者をつくること

現在のリーダーはこれと思う人がいたらリーダーの教育をすることです。機会ある毎にリーダーの仕事を代行させ本人に体験させ自信をつけさせましょう。単に代行させるだけではなく正式に分担させ、回りに次期リーダーとして認めさせることが大切です。新しいリーダーが誕生したら「小姑意識」をもたないこと。

④一人一役の運営をすること

メンバー全員に何らかの役割を付け集団運営を工夫することです。また、各係りを一部のメンバーの担当にしないことです。代表者、会長も1つの係りとわりきっても良いのです。「代表係り」と呼んだ言葉の響きは大きく異なるものであることに気が付きます。

⑤私塾化しないこと

クラブはクラブを構成する会員が主人公なのです。リーダーはその人達の中で選ばれたマネージャーなのです。いふならばリーダーは会員の意を汲んで組織をマネジメントするだけの役割なのです

⑥新人を受け入れること

古い会員が新しい会員を指導するようなプログラムを作ることです。新人には、その人ができる仕事を分担させ、自然にクラブに慣れさせることです。新人は確かにダンスの経験は少ないですが社会人として様々なキャリアとスキルを持っています。

⑦しっかりキマリを作り、守ること

もし規約がなければボスが発生しても防止のしようがありません。会計がはっきりしなくても明朗化する手がかりがありません。

以上、だれがクラブ運営に関わってもクラブ運営がうまく行く様にクラブ運営の仕組みをきちんと仕込む事が最大の任務なのであり、単に日々のクラブ運営に奔走するものではないのです。

8. 情報の共有

クラブ運営で重視すべきは「情報の共有化」です。クラブ運営に際しては会員同士の情報の共有は極めて重要な役割を果たします。情報の共有ツールとしては「会報」、「クラブニュース」、「例会案内」、「議事録」、「例会ミーティング」、「記念誌」等があります。たしかにこれらを作成するには大変な苦勞が

伴います。その為にはそれぞれのツールが持つ意義をしっかりとクラブ員に周知理解する事が必要です。さて、会員に新しい情報を出来るだけ速く伝える場として重要なのは例会のミーティングです。ミーティングの場を単にパーティー案内の場だけではなく、役員会で決定事項の伝達や、県連の報告、支部活動の動向などをいつも折りにふれ会員に話しておくことが大切です。このような繰り返しが組織の一員であることの認識や県連や支部活動は自分達の活動の1つである認識が徐々に培われてくるものです。

一部の役員や幹部だけで総てを背負い込んでしまいでちっとも会員の協力が得られないなどと言っている人がいませんか。常に情報が伝えられていなければ会員も協力のしようがありません。限られた一部の人間で物事を決めるのではなくクラブ員が合意した形で物事を決めて行くことが大切です。また、役員会での決められた経緯がわかるように役員会の議事録はかならず作成し、会員全員に配布すると共にミーティングの場で要点を報告しましょう。

9. 会報発行の意義

クラブ運営で最も大切なことは会員同士の意思疎通です。クラブにおけるもめごとの多くはこの意思疎通の不足に起因しています。すなわち、意思疎通はクラブの大きな資産でもあります。毎例会でのミーティング、役員会での話し合いは勿論スナックタイムも単にお茶の時間ではありません。会員同士がお互いに意思疎通を図ることが出来る貴重な時間でもあります。行事のあとの2次会や踊りを離れての合宿やイベント後の懇親会なども意思疎通の絶好の機会でもあります。そして、会報発行もまた会員同士の意思疎通を図る大切な媒体であります。

会報発行の意義としては次の①～③が挙げられます。

- ①会員同士の意思疎通と相互理解
- ②情報交換の場
- ③自分及びクラブとしての記録

確かに会報発行には原稿集めや、編集などと大変な労力が必要です。しかし、その労力を費やしてでも発行する意義は大きいと思います。

(次号に続く)

第9回連載コラム(第4話)

クラブの繁栄と存続の秘訣

相談役 辻田満

第9回連載コラムは「クラブの繁栄と存続の秘訣」です。第4話は10. 例会プログラム、11. レベルアップの問題、12. 達成感の共有、13. 将来への継続、14. あとがきです。第9回連載コラムはこれで最終話です。

10. 例会プログラム

ベーシックも修得し、MSも踊り込んでくると会員の中からPLUSやRDに対する要求が必ず出てきます。会員のレベルが一定であれば問題はあまりありませんが、とくに外部の活動を活発にしている一部の会員から声が出てくるものです。ですから、その時にどうすべきかを考えるのではなく、基本構想の段階で自クラブにおけるPLUSやRDの位置付けを明確にしておくことです。MSの踊込みの期間、PLUSを教える時期などの基本ルールはクラブとして決めておく必要があります。

例会プログラムにも常に工夫が必要です。クラブによっては例会プログラムもなしにコーラーにお任せで進行しているクラブもあるようですが、これは例会がマンネリ化するものになるので注意が必要です。例会プログラムの基本案はコーラーが独断で決めるのではなく会員の意見も反映して役員会で決めるプロセスが良いでしょう。そして例会プログラムも時折見直す必要があります。日々の例会は会員の合意で決められたプログラムに沿ってコーラーが具体的に例会を進行していきます。

11. レベルアップの問題

会員のレベルアップばかりに趣を置きすぎてビギナーの育成を蔑ろにしてしまうことは将来の継続の上で危険なことで避けるべきです。ビギナーの育成はクラブの活性化と次世代

のリーダーの育成の上からもクラブの活動の中で最も重要なことなのです。例会活動の最も大切なことはビギナー育成にあり、その中で例会の楽しさを作り出すことの工夫は常に必要です。レベルアップとビギナーの育成のバランスこそが例会運営のカギとなります。クラブ員はある程度の規模で会員が集まれば必ず初心者講習会はやらずに会員のレベルアップのために踊り込みをしようという意見が出てきます。

また、会員の高齢化が進む現状で高齢会員からは「私たちはもうそんなに長い時間スクエアダンスを楽しめないのでビギナークラスはしないで楽しく踊りたいです。」との声が出てきます。この声をどう捉えるかが会の存続に大きな影響を与えます。会員のレベルアップなどは時間が経てばだんだんと踊れるようになってきます。当たり前のように毎年新人を迎える文化を作ることはクラブ存続に大きな恩恵をもたらす結果となります。1年でも初心者講習会を怠ると後々その影響は計り知れない程大きなものとなります。とにかく新人を毎年迎えることは単に会員を増やす目的だけではなくクラブの持続的発展には不可欠なものなのです。

クラブもある程度時間が経過するとクラブ内には必ずレベル差が生まれて来ます。これをそのままに見過ごすことは出来ません。レベル差への対応もクラブ継続の重要なカギの1つです。これに対する対応方策は現在各クラブでそれぞれ創意工夫されているようです。いずれにしても後手にならないようにレベル差への対応は怠ってはいけません。出来るだけ経験の異なる会員が一堂に会して楽しめる例会作りを目指さなくてはなりません。

12. 達成感の共有

いかなる行事でも欠かせない重要な三つ

の共有があります。一つ目の共有は「目的の共有」です。その行事をやる目的は何か、その目的をすべての会員が共有することがまず大切な一つ目の共有です。二つ目の共有は「プロセスの共有」です。一部の会員だけが汗を流すのではなく全員が一丸となって準備に取り組むことが必要です。そして、三つ目の共有は「達成感の共有」です。

この三つの共有があって初めて行事を成し遂げた時に「達成感の共有」が生まれます。その達成感の共有こそがクラブ活性化の根源となります。とくに、アニバーサリーパーティーを開催する場合はここを十分に会員に理解させることが必要です。往々にしてリーダーの見栄で開催して会員が疲れ果ててしまうケースが多々見られ、これでは何のためのアニバーサリーパーティーなのかわからず本末転倒の結果となってしまいます。この達成感の共有はアニバーサリーパーティーに限らず、とくに大きなイベントを実施する時には常に考えるべき課題です。

13. 将来への継続

クラブを作ることは簡単です。難しいのはそのクラブを将来へ継続させて行く事なのです。今までの章で述べてきたことの全ては将来への布石なのです。リーダーは先を見て行動を起すことが大切です。リーダーは自分がリーダーの時に次のリーダー、コーラーを育成しておかなければなりません。自然発生を待っていても駄目です。やらせることによって人は成長します。出来そうな素養と意欲のある人にはどんどんとチャンスを与えて経験させて次世代のリーダーやコーラーとして育成しましょう。

また、役員はクラブのベテラン会員がすると言う悪しき慣例作らないことが必要です。役員は持ち回りで、出来れば全員が経験しているようなクラブが理想です。

1度役員を経験すると役員の苦勞がよく分かります。そして、役員から自分が一会員になった時は出来るだけ小姑意識を持たないで出来るだけ前向きに協力して上げることが大切です。また、役員が持ち回りでも出来るようにクラブ運営のやり方は常にドキュメントの形に残しておいて次の役員に引き継いで行くのが良い方法です。クラブ運営の具体的な方法が一部のベテラン役員のノウハウとしてあるだけでは引き継ぎようもありません。大切なことはリーダーや一部の役員だけで対応しないでクラブ員全員参加の基のクラブ運営を心がけることです。それには何よりも常にクラブ員に対する教宣が重要となります。

将来への継続で最も大切なことはズバリ「限られたリーダーに長期に依存しないこと」なのです。スクエアダンス界全体が高齢化していく中で常にリーダーの世代交代を図って行くことが重要です。そして、新しいリーダーを会全体で支えていくことが必要です。

「クラブを皆の力で大切に育てたい」と言う共通の認識の基にクラブ員全員が常に将来への継続を念頭に次世代のリーダーを育成していかなければなりません。

14. あとがき

以上が「クラブの繁栄と存続の秘訣」です。基本に則ったクラブ運営を実施していれば結果は必ず後から付いて来ます。また、クラブ運営は本当に苦勞が多いものです。しかし、その苦勞を差し引いても余りある喜びが必ずあります。是非、基本に則ったクラブ運営を皆さんにお勧めします。やるべきことをやれば必ず成果が出ます。

そして最後にもう一言、「例会が楽しいこと」これがクラブの繁栄と存続の秘訣の最も忘れてはならない根幹です。

(第9回連載コラムはこれで終了です)